

インタビュー特集

市立堺病院の眼科医療の
動向と今後の展開。

い
と
こ
さ

目の検査、していますか？

市立堺病院でたくさんの赤ちゃんが生まれています！



あさひ 朝柊くん H26年12月18日生まれ
朝柊くん、パパとママの子どもに生まれてきてくれてありがとう(*^_^*) 本当に嬉しかったよ!! これからはお兄ちゃんと仲良く楽しくニコニコ笑顔で過ごそうね(*^o^*)



らいか 来華ちゃん H26年12月26日生まれ
私たちのもとに生まれてきてくれてありがとう!一緒にいっぱい遊ぼうね!



はると 悠人くん H27年1月7日生まれ
2920gで産まれました☆ 元気にすくすくと育ってね♪ 産まれてきてくれてありがとう!!



たかし 貴志くん H26年12月8日生まれ
まん丸貴くん、生まれてきてくれてありがとう!! 元気に育ってね!

春野菜をたっぷり使ったレシピ あさりと春野菜のんにくポン酢蒸し

(1人分 80kcal 塩分:1.3g)



<作り方>

- ①あさりは塩水に浸けて砂出し、殻をこすり合わせてよく洗う。キャベツはざく切り、玉ねぎは細く切りにする。ミニトマトはへたをとって、皮に切り込みを入れておく。(加熱による破裂を防ぐため)
- ②耐熱皿にキャベツと玉ねぎを敷き、あさりをのせ、Aをかける。
- ③ゆるくラップをかけ、電子レンジ(500W)で6分程度加熱する。
- ④あさりの口が開き野菜がしんなりしたら、ミニトマトを入れ、電子レンジ(500W)で30秒~1分程度加熱する。
- ⑤フライドガーリックを入れて全体を混ぜる。塩で味を調べてできあがり。

★あさりに塩分が含まれるので、塩を入れる前に一度味見しましょう。

<春野菜>

春には、新キャベツ、新玉ねぎ、新じゃが…など“新”とつく野菜が出回ります。みずみずしく生のままで甘みがある春キャベツ、辛みが弱く生でもおいしい新玉ねぎ、皮が薄くやわらかい新じゃが。いずれも、この季節に採れるものだけが持つ味わいです。春野菜は生や短時間で調理すると、栄養素も抜けにくく、食感を生かせ、美味しく食べられます。

栄養管理課 渡邊薫子

<材料 4人分>

- | | | |
|-----------------|-----|------------|
| あさり(殻つき) ……400g | A (| 酒 ……大さじ2 |
| 新キャベツ ……400g | | ポン酢 ……大さじ2 |
| 新玉ねぎ ……200g(1個) | | こしょう ……少々 |
| フライドガーリック ……10g | | 塩 ……適量 |
| ミニトマト ……80g(8個) | | |



眼科部長 林 仁 先生

——はじめに、市立堺病院の眼科医療の特長をお聞かせください。

白内障、緑内障をはじめとした一般的な眼科診療に加え、特に専門的な分野として角膜・結膜疾患や網膜硝子体の疾患などに幅広く対応しています。また瞼（まぶた）など外眼部の疾患や、糖尿病網膜症など他の全身性の疾患が原因となる病気についても総合的に対応しています。

——総合病院としての眼科医療

当科の強みは、やはり総合病院としての対応力であり、他の診療科と協力して最善の治療を提供することができるように努めています。二〇二二年の秋からは角膜移植手術もスタートしました。これは私の専門分野のひとつですが、現時点ではまだやっていない病院が少ないのが現状であり、当院の特色といえると思います。

市立堺病院の眼科医療の動向と今後の展開。

市立堺病院の眼科医療の動向と、今年7月に開院する堺市立総合医療センターにおける眼科医療の新展開について、眼科部長である林先生にお話を伺いました。

——は、どのようなメリットがあるのでしょうか？

眼科だけでは対応できないような病状にも対応できることです。例えば、瞼（まぶた）が下がってくるような眼瞼下垂（がんけんかすい）や、まぶたの腫瘍等は、眼科よりも形成外科医にお願いして、専門的な検査や治療をやっていただくことが多いです。また脳梗塞や脳腫瘍などの脳外科的な病気では、目に症状が出る場合もありますし、皆さんご存じの通り、糖尿病の合併症で網膜症を生じることがあります。このように、他の診療科と常に連携を図りながら、より総合的な医療を行えることが総合病院としてのメリットです。

——今年七月の新病院移転後、堺病院の眼科医療はどのように変わりますか？

新病院である堺市立総合医療センターに移転することによって、眼科部門は「アイセンター」と呼称を変えて、新たにスタートします。診察室の数が増えますし、設備面でも、医療スタッフ面でも、すべての面においてスケールアップする予定です。特に新しいアイセンターでは、眼科専用の手術室が、同じエリア内に完備されます。緊急的な手術が必要な場合にも、従来よりも早く対応ができますし、一般的な手術でも待ち日数を短縮できることが期待できます。今後ますます、より効率的かつ機動力のある眼科医療体制を実現できると思います。

——加齢黄斑変性の治療に、新たな動きがあるようですが。

ここ十年近くの中で注目を浴びている眼科治療の一つが、加齢黄斑変性（おうはんへんせい）の治療です。テレビや新聞でも何

7月1日
OPEN

新病院「堺市立総合医療センター」

もうすぐ開院



外観イメージ

新病院の所在地 堺市西区家原寺町1丁1番1号



新病院移転に伴う休診のお知らせ

新病院への移転(平成27年7月1日)に伴い、下記のとおり休診いたします。当院ご利用の皆さまには、ご不便をおかけいたしますが、ご理解ご協力をお願いいたします。

	休診期間
外来診療	平成27年6月27日(土)～平成27年7月5日(日)
救急外来	平成27年6月29日(月)～平成27年7月1日(水)
分娩	平成27年6月8日(月)～平成27年8月2日(日) ※上記期間に出産予定の方は母子の安全を優先し、分娩予約を受け付けておりません。
検診	平成27年6月27日(土)～平成27年7月5日(日)

度も取りあげられており、ご存じの方も多いかと思えます。加齢黄斑変性というのは、主に加齢が原因で、網膜の中心部である黄斑に障害が生じ、見ようとするところが歪んだり欠けたりするなど、見えにくくなる病気で、欧米では、成人の失明原因の第1位であり、厄介な病気です。この病気は十五〜二十年前は手が出せない病気だったのですが、現在では硝子体注射（目の中に薬剤を入れる）による治療が成果を上げてきており、同様に難治であった網膜血管が閉塞する病気や、糖尿病による黄斑症にも徐々に適応が拡大されてきています。この治療に関しては、専門分野とされている先生が全国

的にもほとんどいないのですが、当院では今年四月から大阪大学から専門の先生を、網膜担当部長として迎え入れます。南大阪一円にも、この病気で困っておられる患者さんが多いと思われ、まずは今診てもらっている先生と相談してから、是非一度受診して頂ければと思います。なお、硝子体注射の治療適応を判断された場合は、その日のうちに注射をして帰ることができるよう迅速なシステムを準備中です。ただし、一度の注射で治療する方もいれば、何度も注射を必要とする場合、あるいは注射治療でも軽快が困難な場合があります。だからこそ、より専門的な知識と豊富な経験をもった医師が必要



とされるのです。（写真①②参照）
——眼科の手術は日帰り手術が主流なのでしょうか？

「目の手術」というと、とても大変な入院手術を想像される方もいらっしゃると思いますが、眼科の手術は、入院が必要な病気もあります。日帰りで出来ることも増えてきています。もともと眼科手術は、全身麻酔を必要とするようなことがほとんどないので、身体への負担がとても少ない手術であると言えます。それに加えて、手術方法の進歩（小切開手術や無縫合手術）や、縫い針ほどの太さにまで細くなった手術器具の進化には、目を見張るものがあります。なので、一般的な白内障手術であれば、普段の外来受診を歩いて通院できている人であれば、日帰りで手術を勧められています。ちなみに、緑内障や網膜剥離、あるいは角膜移植などの手術は、手術後の厳密な管理の必要性がありますので、やはり入院していただいで手術治療をすることが必要です。

一方で、昨年春にあった保険の

改正では、白内障手術はできるだけ日帰りするような国の方向性があるようです。そういう意味で、新しい病院の眼科専用手術室は力を発揮するのではなにかと思えます。

る場合には、当院を紹介いただくことが基本的な流れとなります。患者さんの中には病院志向を持った方も多く、「とにかく大きな病院に行っておけば安心だろう」という考え方も確かにあります。しかし、地域医療という単位で考えると、すべての患者さん、すべての症状を病院で診てみると、待ち時間が予想以上にかかるだけでなく、一人ひとりかかる時間を少なくしなければならぬ事実につながります。その結果、患者さん一人ひとりの医療の質が落ちていくことにもなりかねませんし、何よりも病院でなければ治療ができない重篤患者さんに充てる時間が必然的に

——地元の開業医さんとの連携についての重要さをお聞かせください。

当然のことですが、総合病院と開業クリニックの先生方とは、常に連携を図っていて、これを地域連携といえます。地元のクリニックを「かかりつけ医」として、まずは一次診療をしていただければ、そちらでは対応できないような検査や治療、手術が必要とな

写真①
■網膜三次元解析装置
網膜の断面構造を撮影できる、最新鋭の検査解析装置。短時間かつ簡便にミクロン単位での診察が可能となり、特に黄斑変性の診断に力を発揮します。当科では、前眼部専用の機種も活用しています。



写真②
■マルチカラーレーザー光凝固装置(左)
糖尿病網膜症や、様々な眼底の病気に使用するレーザー治療装置です。アイセンターでは、新たに最新機種を導入予定です。
■YAGレーザー装置(右)
後発白内障や急性緑内障の治療に有用なレーザーです。



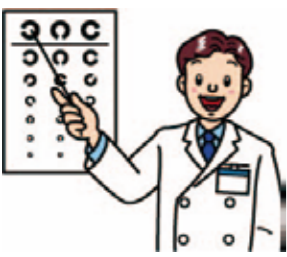
少なくともしてしまいます。そこで、地元の皆さんにとって大切なのは、まずは近隣にかかりつけのクリニック・診療所をつくっていただくということです。定期検診をはじめ、何か症状が現れた際には、まずはかかりつけのクリニック・診療所を受診していただきます。そこで、もし病状が解決しないようであれば、地域医療連携室を通して、病院を紹介受診していただくこととなります。そして当院で急性期の治療をして、ある程度病状が落ち着いたいたら、また近隣のかかりつけ医に戻っていただくこととなるのが、一般的な流れです。受け入れがたい部分もあるかと思えますが、「医療の役割分担」、あるいは「地域医療連携のあり方」を是非ご理解いただきたいと思います。

調子が悪い日に、「メガネを持ってないから」といって、無理にコンタクトレンズを使い続けてしまうことが、感染症などの深刻なトラブルにつながっていることが多く見受けられます。定期検診とともに、自分で目を大切にすることも心がけてください。

また、過去の大規模な疫学調査の結果では、四十歳以上では二十人に一人が緑内障（あるいは緑内障の予備軍）というデータが出ています。緑内障は、ほとんどが自覚症状がないことが多く、自身で気がついた時にはかなり深刻かつ手遅れとなっていることがあります。四十歳を超えたら、是非一度は眼科での検診を受けるようにしてください。最近検査機器も発達かつ普及してきていて、お近くのクリニック・診療所でも気軽に精密な検査が受けられることが多くなっています。

——最後に眼科医として、地域の皆さんに何かメッセージをください。

まず、コンタクトレンズを使われている方は、必ずメガネを併用する感覚を持つようにしてください。コンタクトレンズを装着して



何事も早期発見、早期治療が大切です。

お薬の飲み合わせについて

薬剤科 石坂敏彦

「種類では問題ないお薬でも、お薬どうしの飲み合わせやお薬と食品(サプリメントも含む)の食へ合わせにより、お薬の効き目が強く出たり、お薬の効き目が弱くなったり、影響がでる組み合わせがあります。」

お薬どうしの飲み合わせのチェック「おくすり手帳」の活用を

医療機関では、病気を治療するために、患者さんの症状などに合わせて何種類かの薬が処方される場合があります。その際、医師・薬剤師は薬どうしの飲み合わせに十分に配慮していますので、指示されたとおりに服用してください。

しかし、他の病院のお薬を飲まれている場合や薬局・薬店で購入したお薬を飲んでおられる場合には、現在、飲まれているすべてのお薬を医師や薬剤師に伝えていただかないと、同じ薬が処方されることにもなりかねませんし、お薬どうしの飲み合わせを確認することもできません。お薬を飲まれている場合には、必ず医師にお伝えください。また、お薬を服用中に、薬局な

どで購入した薬を飲む場合にも、医師または薬剤師にご相談ください。

そして、お薬どうしの飲み合わせを確認するために役立つのが「おくすり手帳」です。診察時やお薬を購入する時には、「おくすり手帳」を携帯し提示することをお勧めします。

食品やサプリメントなどと一緒に食べたり、飲んだりすることでお薬の効き目に影響が出る組み合わせがわかってきました。食品との飲み合わせについてもお薬の説明書に記載されている場合があります。お薬を受け取る際には、お薬の説明書を確認し、不明な点は必ず薬剤師にご相談ください。

お薬と食品やサプリメントとの飲み合わせ

- ・グレープフルーツ
- ・グレープフルーツジュース

(主にお薬の効果が強くなる)

血圧や狭心症などの治療に使用されるカルシウム拮抗剤と呼ばれるお薬の中には、グレープフルーツやグレープフルーツジュースと一緒に飲むとお薬の効果が強く出ることが知られているものがあります。これはグレープフルーツに含まれる成分が、お薬の分解を抑えてしまうことで血液中のお薬の濃度が上がるためです。この効果は、数日間継続することもありますので、影響のあるお薬を飲まれている場合は、グレープフルーツやグレープフルーツジュースを摂らないようにしましょう。また、カルシウム拮抗剤以外にも影響があるお薬もありますので、不明な

点は医師・薬剤師にご確認ください。

・セイヨウオトギリソウ

(主にお薬の効果が弱くなる)

ハーブの一種でセイヨウオトギリソウ(セント・ジョーンズ・ワート)に含まれる成分が、特定の薬の分解や排泄を進めることで、お薬の効果が弱くなることが報告されています。例えば、ジゴキシン(強心薬)、シクロスポリン(免疫抑制薬)、テオフィリン(気管支拡張薬)、ワルファリン(血液凝固防止薬)、抗HIV治療薬、経口避妊薬など多数あります。

これら以外にも食品や喫煙による影響を受ける可能性があるお薬がありますので、薬を飲まれている場合には、必ず医師や薬剤師にご相談ください。

当院の登録医紹介

西区浜寺船尾町西 高田眼科

高田明子 先生



■私の診察モットー

当院のモットーは、患者さんに十分納得いただける説明をしてあげること。緑内障や眼底出血などは、症状がひどくなってから来られる方も多いのですが、患者さんは当然不安を持って来院されるので、病気・病状の説明をしっかりと行い、納得して安心してもらうことが大切だと思います。

また、診断の結果、手術が必要な場合も多々ありますので、堺病院さん等、地域の総合病院さんと連携した治療体制をとっています。

■地域の皆様へのメッセージ

皆さんに特に気をつけていた



OCT(緑内障や加齢黄斑変性等の病状チェックに使う検査機器)



堺市西区浜寺船尾町西4丁508
★阪堺線「船尾駅」より徒歩10分

☎072-265-0120

診療科目	眼科						
診療受付時間	月	火	水	木	金	土	日
9:30~12:30	○	○	○	○	○	○	△
16:30~18:30	○	○	○	○	○	○	△

堺区熊野町東 井筒眼科医院

井筒雄一 先生



■私の診察モットー

できるだけはつきりした診断名を告げることや、今後の対策、薬の効能等の説明を分かりやすく伝えることを心がけています。定期的に診察に来られる患者さんの病状の進行状況によっては、堺病院さんなど総合病院との連携も図っています。お年寄りが多いので、老眼鏡のアドバイスや白内障の手術についての相談もたくさんしています。

■地域の皆様へのメッセージ

人は普段、両目でものを見ているので、片目の変化になかなか気づきにくいものです。時々、片目でものを見るようにしてください。視力が弱ってきているの

が分かりやすいよ。自分でおかしいなと思った場合は、意外に他に病気を併発していることもありますので、何事も早く発見することが大切です。

■私の健康法と趣味

私自身は健康のためにハイキングをしたり、趣味で航空機の写真を撮ったりしています。私は17歳の時に自家用操縦士の免許を取得したのですが、それ以来、飛行機に夢中として、いろいろなところに出掛けて行って飛行機の写真を撮りまくっています。作品は結構好評なんですよ(笑)。特にお気に入りの写真はカレンダーにしたりして、友人知人にプレゼントしたりしています。



井筒先生が趣味で撮られている飛行機の写真をカレンダーにしたもの。



堺市堺区熊野町東1丁1-5
★阪堺線「大小路駅」からすぐ

☎072-232-1061

診療科目	眼科						
診療受付時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~13:00	○	○	○	○	○	△	△
16:00~19:00	○	○	○	○	○	○	△

△=土曜は12:00まで

